

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F

Tel : 045-201-8808 fax : 045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail : any@netpro.ne.jp



萱原 道子さんを偲んで

認定 NPO 法人 AIDS ネットワーク横浜 理事長 笹田克子

時の移ろいはなんとも早いものです、貴方が逝かれて二か月が過ぎます。小高い所にあるそのメモリアルの棺に貴方が眠っていました。

いつも、オシャレを忘れず、趣味の薙刀で腰を痛めたとか、杖を突いているときも気遣いを忘れず、ネットワーク横浜のメンバーとして経験を活かし、責任を果たすべく電話相談に出ていてくれました。総会 27 回の長い付き合いでした。

お母様にそっくりな娘さんの声で一報を聞いたとき、驚きました。私も一週間前ネットワークで「ご苦労様」を言い別れたばかり、信じられない

お話は、前日まで電話で話されていたと聴きました。

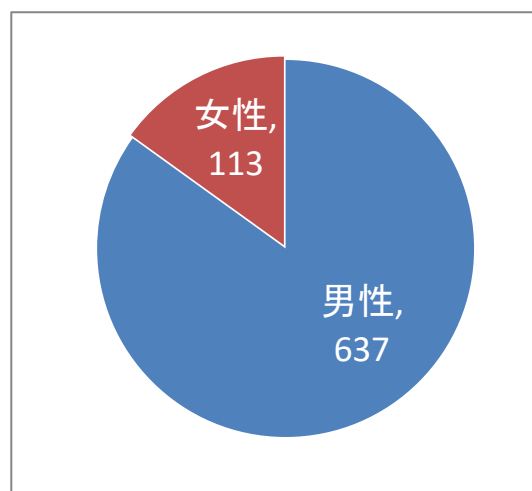
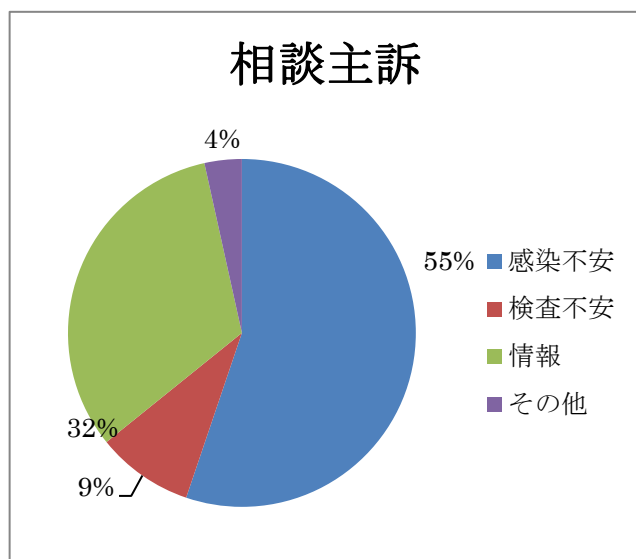
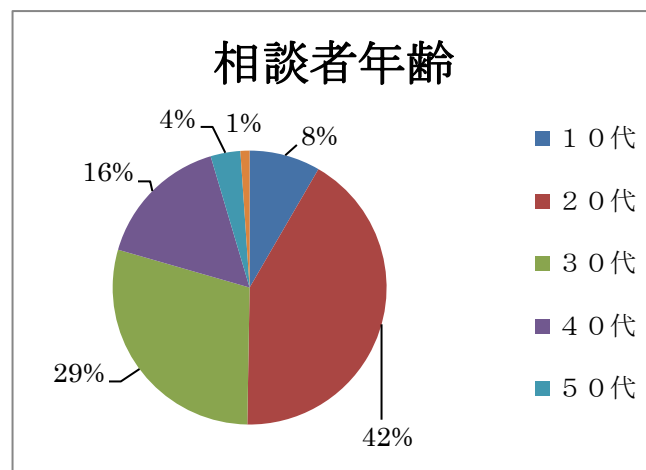
趣旨・義務を重んじる我々の活動です。娘さんは、お母様から何も聞いておらず、インターネットで私を知り、知らせてきたとのこと。母の生きざまを知るために一言のお願いでした。経歴を生かした活動に敬意を表し、心の中で、笑顔の遺影にベレー帽を添えお別れします。貴き戦士にお疲れ様とありがとうと申し上げます。



お詫び：ニュースレター 3 月 18 日発行の NO. 216 を NO. 217 に 4 月 25 日発行の NO. 217 を NO. 218 にお詫びして訂正いたします。

2018 年度の電話相談のようす

- ① 2018 年の年間相談件数は、年間 99 回の電話相談を行い、755 件の相談を受けた。
- ② 相談者の年代区分では、20 代（42%）、30 代（29%）、40 代（16%）10 代（8%）の順に多い。過去 4 年間の動向をみると、10 代、20 代の相談が増加している。
- ③ 相談する方は、男性が 85%を占めている。
- ④ 相談者の性指向は、同性愛者（男性 13%、女性 0%・・・実数は 2 人）、両性愛者（3%）、その他（84%）である。
- ⑤ 相談者の居住地は、県外（76%）、市外の県民（14%）、横浜市民（9%）である。
- ⑥ 相談する方は、陽性者 3 名であった。（3 年前は、陽性者からの相談は 45 人であった）
- ⑦ 相談内容は、感染不安（55%）、情報が欲しい（32%）、検査不安（9%）の順に多かった。



第 27 期ボランティア学校が始まる

27 回目を迎えたボランティア学校が 6 月 22 日から開校しました。開校式では、受講者の方と ANY スタッフによる自己紹介を行いました。

第一講座は、ANY 事務局長堀尾吉晴さんによる「やさしく HIV と免疫」と題して免疫と HIV について、総合的に分かりやすく解説していただきました。

いろいろな性 安達倭雅子（一般社団法人“人間と性”教育研究協議会）

第二講座は、安達倭雅子さんによる「いろいろな性」の講座です。講座の一部を報告します。

私は電話相談員を 40 数年しています。電話に出るということは、科学的理解が基礎にあり、医療の新情報を得る努力をします。クライアントとのやりとりで、対応が間違ってもどれくらいクライアントを尊敬できるかが大切。電話の受け手が、ちょっとでも HIV に感染したことを不運と置いていけば成り立ちません。

虐待の電話相談は、考えられないところから始まる。自分もぜったいに虐待しないことはない。そこから、始まる。HIV にどうして感染しないでいられるか？偶然である。（電話相談では）相談者をどのくらい尊敬できるかにたどりつけるかが大切。どんな言葉を持っているか、言葉をバカにする文化はさみしい。武器は言葉しかない。

昨年、私たちの会の中で、子どもたちに授業で月経・射精についての気を付けたいポイントについて議論しました。月経についての説明を、「出血する」と言えば、生徒は恐怖を感じます。月経血は出血ではないですね、粘膜と一緒に排出され固まらないです。新陳代謝のためにあります。排卵についても、卵胞からポンと出たと擬人化した

表現などを排除したほうが良いのではという話し合いをしました。月経周期については、WHO は 25 歳～35 歳の女性は 21 日～38 日の間を揺れるとしています。

小学校の性教育では文科省は 92 年に小学校 4 年生に月経、射精について保健体育で取り上げました。学校で月経や射精について子どもたちが学ぶようになりました。しかし、（それから 30 年近くたったが）教育の貧困ゆえに電話相談は不減です。性について詳しくないほうが良いという人がいますがそうではありません。知識があれば性行動に慎重になるということが明らかにされています。

「ブレンダと呼ばれた少年」という本をご存じでしょうか。ジョン・マナーは「性の署名」という本に、男の赤ちゃんが割礼の際にペニスを切り落とした事故でその子を女の子として育てたことを書いています。男の子として生まれても女の子として育てれば問題ないと書いたのです。しかし、その子は、16 歳になった時、「自分は男だ！」と思い、セクシュアルアイデンティティに

混乱します。性転換をして男性として生きていきますが、結果的には36歳で自殺しました。

「人間の性のありかたの多様性」（ハワイ大学・ミルトン・ダイヤモンド博士の講義メモより）の表を使いながら性の多様性について話します。

母子手帳では性別の欄は「男・女・不明」の表示になっていること、異性愛のことをヘテロセクシュアルと言うが、異性愛を「普通」と言ったり

するがそれは間違い、異性愛が多いだけでいろいろな性があるうちの一つであるという認識が大切。いろいろな人がいる多様性を認められることが大切、自分もそのうちの一人であるのです。

受講者の方からは、「性教育の実際や教える人たちがどう思っているのかを知ることができ良かった」、「電話対応で相手を尊敬すること、正しい言語を使うというお話が印象に残っている」などの感想がありました。

HIV の検査 佐野貴子（神奈川県衛生研究所）

7月6日の第三講座は、豊富な資料で最新のHIV検査の情報を佐野貴子さんよりお話しいただいた。

・以前はCD4リンパ球の値により、治療の開始時期を決めていたが現在では、みつかったらすぐ治療となっている。

・抗HIV療法は、1日1回1錠の薬が主流。ただし、厳しい内服遵守が要求される。

・抗HIV療法の悪い点は、一度開始したら生涯内服を継続しなければならないこと。

・1年間に係る医療費の比較では、HIV感染症は280万円、結核146万円、悪性腫瘍165万円、糖尿病53万円（厚生労働省研究班による試算）。

・検査を受ける時期に関する基本的な考え方は、心配があればまず検査相談を。（必要があれば3ヶ月以上たってからの再検査を）

・郵送検査は許可されていないが検査数は毎年上昇している。2018年は、108672件中、97件が陽性であった。

・研究班の主導によって行われている「プレ検査／HIV check」で、ゲイ男性を対象に行っている。コミュニティセンターで受け取った検査キットを持ち帰り、自分で採取した血液を郵送する。検査結果はネットで確認して、その後の確認検査の医療機関の予約もとることができる。検査キットを受け取る場所では、支援団体の担当者との相談体制も準備されている。

毎週月曜19時からaktaで配布。20歳以上のゲイ・バイセクシュアル男性が対象、無料、匿名。

・個人輸入による自己診断キットは、誤判定の可能性やサポートやカウンセリング体制がないなどの問題が多いので、安易に入手、使用しないこと。

8月3日の会場は、
かながわ県民センターです。

